

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里 グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字北上の割2020-3		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2470301017-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2470301017-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成27年10月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人おひとりの生活を大切にすべく、個別ケアを日々心がけ、残存機能を活用していただいています。主役は利用者様、スタッフはそっと寄り添う黒子です。その精神で声かけ・観察・気づき・工夫により、利用者様にそっと寄り添いさりげなくフォローさせていただくことを大切にしています。18人18様の個別ケアに徹したケアを実施します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の建物内や芝生と東屋のある庭は、広々として開放的な雰囲気がある。職員は利用者一人一人の細かい様子も観察し、満足していただけるように話し合い、試行錯誤をしながら日々の介護に取り組んでいる。利用者が重度化する方が多い中、協力医の指導の下、看取りも積極的に行い、最期まで寄り添って過ごせるよう努力している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設創設からの理念は、現状行っている支援にそぐわない為、職員全体で検討中	「人の尊厳を大切にし、人間らしい生活ができるように支援する」という理念の下、支援を行っている。新しい理念を作るため職員から募っているが言葉にすることが難しく、検討中になっている。	事業所の大切にしたい思いを、利用者・家族・地域住民に伝える新しい理念を作り、実践につなげていくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校・中学校の運動会・文化祭に参加している。また、中学校の職場体験授業を受けている。実習生も受けいれている。	自治会に加入しており、老人会のイベントで講師を依頼されたり、近隣住民を対象に健康教室を行っている。また、利用者の家族から野菜を頂いたり、デイサービスのレクリエーションに参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の催しに参加し、認知症予防の話、体操等をさせていただいたり、推進会議の来客の方に認知症の様々な症状や見守り方法などを伝え理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の近況報告・施設食事試食・利用者様出展作品見学・DS健康教室参加・などしていただき、ご意見、ご指導いただきサービス向上に活かしている。	参加者に気軽に来てもらえるよう工夫し、事業所の行事と同日開催して、意見や感想を聞き、活かしている。年6回の開催ができておらず、課題となっている。	普段の何気ない様子を見ていただいたり、事業所から情報を発信する機会として活用し、年6回以上開催することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の疑問がある場合は郵送ではなく出来るだけ出向くようにしている。月1回の相談員の方に意見交換・情報いただき協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは必要に応じて連絡を取り合い、相談や報告を行うことで協力関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内から広くゆったりとした芝生の日本庭園に自由に入出りができます。安全の為、駐車場に続く門扉は施錠している。身体拘束の意味をすべての職員が理解した上で取り組んでいる。	拘束に関する外部研修に参加し、職員間で伝達している。職員へは言葉遣いも含め、管理者が直接指導をしている。現在、拘束に当たる利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長・管理者・ケアマネ・職員、虐待防止についてしっかり努めている。管理者は現場に入り普段のケアをしっかり把握できるようにしている。職員は管理者にすぐ報告できるよう努めている。管理者は職員が報告しやすい環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご本人・家族様からの要望があれば、必要性を話し合い、活用できるよう対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長・管理者が立会い、十分な説明をして、不安や疑問にしっかり対応させていただいている。解約の際の相談も対応させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見・苦情受付コーナーを設けたり、御家族様面会の際には利用者様の生活の様子などを話させていただいている。家族様の意見が話しやすいように雰囲気作りに努め、要望があれば、すぐ対応出来る様努めている。	面会時や電話連絡時に聞き出し、直接意見があればすぐに検討し、その都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議・毎朝の申し送りの時に聞く機会を設け、反映させている。改善提案書での意見反映も行っている。勤務終了後に管理者との意見交換も大切にしている。	積極的に意見や提案を出せるように、日誌や提案書に職員が記入していき、検討がなされ、改善に活かしている。職員の意見から、フロアの一角にカーテンを設置し、利用者の休息場所を設けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に努めている。管理者・フロア一長との連携も大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケア力量は把握している。各種の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小・中学校の運動会の参加・応援と一緒に参加・おたっしゃ広場作品展示会運営会議・各種研修等も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人面談で思いを伺い、しっかり受け止め、現状・背景を理解し信頼関係を築けるよう努め安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は必ずご家族様の要望をお聞きしている。ご本人が安心して生活出来るサービスを提供しながら、信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の思いを傾聴・利用者様の様子観察し、サービスの提案をしたり、サービスの選択をさせていただいている。ご本人・ご家族の要望を最優先に考え現施設内での最善の対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人と深く関わり共に支えあっている事を意識し仕事や会話を一緒にして信頼関係を築き、共に生活するつながりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とのコミュニケーションを大切にし、面会しやすい環境作りを心がけ、面会時には近況報告をして変化などを共に考え本人を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の来客も歓迎している。電話も自由に出来る支援もしている。DSの行事に積極的に参加し、顔馴染みの方との会話も大切にしている。	親戚・友人・近所の方の来訪を大切にし、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションは困難な事が多くなってきているが、個性・利用者様同士の関係を把握しながら出来るだけ職員が仲を取り持ち、良い関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人死去の為、サービス終了後は疎遠になることが多いが、家族様が毎月お花を持って施設に来てくださっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察、会話を多く持ち思いを察し意思を尊重するケアが出来るようスタッフ全員でケア検討している。	利用者から直接意向を聞きだすことは難しい場合が多くなっているが、今までの生活や情報を、家族へ相談した上で推測し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴は入所時に把握し、ご家族様、ご本人にも積極的お話を伺うよう努めている。細かく把握することで今までの生活との格差を少しでもなくせるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、様子観察に努め表情・歩行・食事・排泄の状態を把握し、介護日誌への詳しい記入、日中・夜間の申し送りで全職員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態、家族様との会話の中の思いを反映し、毎月のカンファレンス・サービス担当者会議でより良いサービスを提供できるよう努めている。	日々の記録や、利用者・家族の希望、担当医や職員の意見を総合し、会議の中で具体的な方針を決め、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の詳しい記入に努め、申し送りノート・朝の申し送り・会議記録などで、情報を共有し、その都度見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを重視し、体調・気分の変化に合わせ、食事形態・足浴実施など個別に工夫し個々に合ったサービスを提供している。ご本人・ご家族様の意向に沿って看取りもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元産のお茶・米・玉子・食材等を提供することで安心・安全な食生活を送っている。手品・歌・踊り等、地元ボランティアの方々に楽しい時間を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設連携医の他、家族様の希望される病院に受診されている。医療機関には情報提供に文書や、職員も家族様と受診の同行をして様子を伝えている。	入居時に意向を確認した上で、全利用者が協力医の往診を受け、変化があれば家族に連絡している。必要に応じて歯科往診も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設連携医の24時間対応・週2回の往診がある。医師、看護師に相談し適切な医療をうけていただくよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往歴・服薬状況・1～2週間のバイタル表を提出、職員一人は必ず同行し施設内の情報を正確にしっかり伝えている。入院時は見舞いに行き、病院関係者・家族様から状況を聞いている。退院時には今後の生活について医療関係者から指示をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に「重度化した場合の方針」を理解していただいている。また、早い段階の時には、家族様に話し、実際、重度化した時のドクターを加え御本人・家族様の意向や、当施設出来ないこと等を話し合い、同意書を交わしている。	入居時に方針とできる範囲を説明し、重度化や見取りの時期になれば度々相談し、意向を確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは見えるところにある。消防・災害訓練などの指導はあるが、いざ実践となると全ての職員が身につけているとはいえないが、様々な場面での経験を経て、適切な対応が身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回、夜勤時想定訓練をしている。防災訓練もしている。日中は近くの親会社に応援を依頼できる体制がある。災害時には近隣施設の協力も書面で交わしている。	消防署の指導の下、利用者参加で避難訓練を行い、夜勤をする職員は全員訓練し、備えている。防災頭巾と水・食料・オムツ等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持ち、一人一人に合った声の大きさ・話し方・会話の内容を考えた対応の心がけ、尊重する気持ちを持ち言葉かけに心配りしている。	特に、利用者ごとの性格や状態に合わせた声かけを職員間で共有することで、落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で自己決定出来る様に工夫するよう心がけている。会話の難しい利用者様には、普段からの様子観察をしっかりと、表情・手振り等で思いがわかるよう努力している。食事時間・入浴時間も好きな時間に出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室・フロアで一日、過され方は様々だが、体調・気持ちの変化を汲み取りその日をどう過ごすことが最善かを個別に考え、希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時の洗顔・髪の毛ブラッシング・ヒゲ剃りはなるべくご自分でして頂けるよう支援している。その人らしさを大切に服選びなどの支援に努めたり、散髪では希望の髪形をに散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間準備(もやしのひげ取り・お茶の葉詰め)・食事片付け(お盆拭き・食器拭き・おしぼり巻き)のおてつだいをさせていただいています。握り寿司・うなぎを注文したり、外食も楽しまれています。季節の物を召し上がっていただいています。	朝夕は事業所で献立を決め、食材調達から調理まで行っている。できる利用者は簡単な作業で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食・汁物栄養のバランスを考えている。嫌いな食べ物は食材を変更し提供している。水分摂取の取り組みの支援として、好みの物を提供したり、個々に量・回数・時間にもとられず、気を配りしっかりと職員で取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事中などでも、義歯の不具合があった場合、洗浄させていただいたり、義歯は毎日、洗浄・消毒させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見てのトイレ誘導したり、行動から察し誘導をして個々に排泄の自立を促す支援をしている。夜間ポータブルトイレを設置し自立排尿をこころがけている。	声掛けの仕方を工夫したり、排泄のタイミングを見て声掛け・誘導し、利用者に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日誌・バイタル表で管理し水分量・食事内容を把握し、乳製品・消化吸収のよい食事・おやつを提供している。運動の時間も毎日もうけ、個別に医師の指示も仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全確保の為に時間帯は決めているが、利用者様の希望・体調・気分を大切に、決められた時間外でも入浴していただいている。入浴時には足湯をしながら水虫対策も行っている。	週3回の入浴で、車椅子利用者は二人介助で入浴したり、隣接デイサービスの機械浴も利用できる。毎日入浴剤を使用し、竹酢液での水虫対策は役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入眠される時間が個々に違う為、ご自由に居室で休まれてもいように室内温度、清潔な寝具、静かな環境作りに努めている。眠れない方には会話をもち、お茶などを飲んでいただいたり安心して入眠していただけるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員当番制で毎日薬準備をしており用法や用量は理解に努めている。服薬支援・症状の変化は日々の観察を行い薬の変更は申し送りノートに記入と申し送りで把握に努めている。症状変化対応は即、かかりつけ医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦・会話から情報を元に、女性には洗濯干し・たたみ・食器拭き・縫い物をしていただいている。気分転換に行事・外食・歌などで楽しんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望にそう事は難しい事もあるが、希望把握は努めている。外出が困難な方には施設内で楽しんで頂くよう努力している。	季節ごとの花見や苺狩り、作品展や運動会の見学、外食・買い物等には行事として外出し、個人的な外出は家族の協力を得ている。希望があれば必要に応じて個人的な外出支援を行うこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者様がいないため施設管理。いつでもお金が使えるように支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば支援している。利用者様が書いてくれた絵手紙・年賀状を送らせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居用の空間には清潔を心がけ、壁面には、花見や外食に出かけた時の写真を貼ったり、窓からみえる山の景色からも季節を感じさせる。窓も大きく光の調節もできて心地よく過していただけるよう工夫している。	明るく広々としたホールにソファや畳コーナーもあり、壁には行事の写真や手作り作品が飾られ、ゆったりとしている。職員と一緒に毎日モップかけをする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いくつかのソファ、外景色の見える窓際にある、椅子・玄関などで、自由に過していただけるスペースがあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時になるべく馴染みものをとお願いしている。写真や思い出のある小物・花・など自由に飾られている。その人らしさがでている居室もある。	ベッド・洗面所・クローゼットがあり、他の家具や小物類は使い慣れたものが置かれている。写真や誕生日の色紙が飾られ、居室を彩っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し一人ひとりにあわせて、その都度工夫をしている。		